

美術教育学研究の先達に聞く

Talk with Pioneers of Studies in Art Education

美術教育史研究部会

The Section of History of Art Education Studies

1. 今回の趣旨

『美術教育学の歴史から』の第6章「美術教育学研究者の海図なき出立」は、美術教育学の最初期の研究者14人を取り上げた¹⁾。美術教育学が全く形をなしていない時期に、彼らが美術教育学研究へ踏み出した経緯、大学紛争と隣接した時期での自己研鑽の様子はとても興味深いものであった。彼らが学んだ東京教育大学、東京学芸大学、東京芸術大学の大学院は美術教育学研究者養成の魁であった。ただ同書ではそれら三大学院に続いて開設された大阪教育大学、横浜国立大学の教科教育専攻大学院出身の研究者、さらに教育実践を思考の原点とした研究者を取り上げることができなかった。

そこで今回、大阪教育大学大学院出身の永守基樹氏、横浜国立大学大学院出身で教育実践を思考の原点とする新井哲夫氏という二人の先達にお話をうかがうことにした。(以下敬称略)

2. 美術教育学専門の出現

戦後日本における美術教育専門、そして美術教育学専門の出現の経緯を簡単に触れておく。

昭和24年に師範学校は新制大学(学芸大学・学芸/教育学部)となった。戦後教員養成は教養重視の原則で始まった。美術教員養成において制度的専門としてあったのは図画と工作で、美術教育は制度的専門としてなかった。

昭和39年に学科目制度発足により、教員養成大学・学部には美術関係学科目として、絵画、彫塑、構成、美術理論・美術史と並んで、美術科教育が置かれることとなった。ここに初めて制度的に美術科教育という専門が出現した。最初、美術科教育は美術関係学科目の中で設置数が最少であった。そして学科目は形式的制度であったので、必ずしも配置教官の実質的専門まで規制するものではなかった。ただ昭和40年代の教職専門重視の政策と相俟って、美術科教育の学科目は昭和53年までに全国に設置された。

形式的な美術科教育専門を打ち破ったのが、昭和40年代半ばから始まる教科教育専攻大学院の設置政策である。最初は特定大学のみへの

設置であったのが、昭和53年頃から全国設置へと転換する。さらに大学院設置のためには、④と合の二名の教科教育教官が文部省設置審議会での業績審査を通過する必要があった。全国の教員養成大学・学部には二名の美術教育学研究者が求められた。ここに美術教育学研究者の大量需要が発生した。しかし供給の絶対数が足りなく、先の14人はこの大量需要に対する貴重な人材であった。その上、前記の最初期研究者養成大学院の一部は研究者養成に力をいれなくなる。研究者養成の場の第二陣とも言うべき大学院の修了生に新井、永守の両氏がいた。

3. 新井哲夫と永守基樹の略歴

新井は大学紛争の余韻が色濃く残る美術専門大学に入学し、卒業後公立中学校教員となり、現職派遣で大学院に学ぶ。永守は学部・大学院では主にデザインを専攻する。二人が美術教育学研究者となっていく経緯は、美術教育史上の貴重な証言となるであろう。

新井哲夫

昭和26(1951) 埼玉県に生まれる

昭和44(1969) 埼玉県立川越高校卒業

昭和49(1974) 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

昭和49(1974)～平成2(1990) 横浜市立中学校勤務

昭和61(1986)～63(1988) 横浜国立大学大学院派遣

平成2(1990)～22(2010) 群馬大学教育学部勤務

平成22(2010)～31(2019) 明治学院大学心理学部勤務

永守基樹

昭和28(1953) 東京都に生まれる

昭和47(1972) 兵庫県立尼崎北高校卒業

昭和51(1976) 大阪教育大学教育学部美術学科卒業

昭和54(1979) 同大学大学院美術教育専攻デザイン講座修了

昭和55(1980)～56(1981) 兵庫県立上野ケ原養護学校(高等部)勤務

昭和56(1981)～58(1983) 大阪信愛女学院短期大学(初等教育科)勤務

昭和58(1983)～平成3(1991) 佐賀大学教育学部勤務

平成3(1991)～平成31(2019) 和歌山大学教育学部勤務

1) 有田洋子「美術教育学研究者の海図なき出立」金子一夫責任編集『美術教育学叢書2 美術教育学の歴史から』美術科教育学会/学術研究出版, 2019, pp. 82-95.